

令和6年度 第2回北海道函館聾学校学校運営協議会 記録

日時：令和6年11月15日(金) 13:30～

場所：視聴覚室

1 開会（教頭）

2 学校長挨拶（校長）

- ・2回目の学校運営協議会で、講師を招いて一緒に学習したい。
- ・バイキング給食で、62名みんなで楽しく給食を食べることができた。準備も大変でしたが、またやりたいと思う。
- ・地学協働アドバイザーの紹介。
- ・VTRに記録し、学校運営協議会の様子を他職員と共有する旨の説明。

3 講師紹介（校長）

4 出席者確認（教頭）

5 日程説明、諸連絡（教頭）

6 授業参観及び学校施設見学（教頭）

7 協議・報告(進行:副会長 京谷様)

- ・事務局より、センター的機能の充実と各学部教育活動について説明。

(1)本校の教育活動について（新出・大高）

※第1回学校運営協議会以降の紹介
質疑)

京谷様：意見発表会の生徒のテーマは？

→4名のテーマ「防災について」「エネルギー削減について」「犯罪を減らすために」「多様性について」

京谷様：とても難しそう。

仲尾様：今年は参加できなかった。行きたかった。

校長：今年の学習発表会は11月1日（北海道教育の日）に行った。そのときに卒業生の桜庭さんも来校し、子どもたちに応援のメッセージをくれた。

幼稚部は「三匹のヤギのがらがらどん」、小学部は「ブレーメンの音楽隊」の劇をやった。HPの校長のページにも新聞記事等を載せている。幼稚部秋祭りにはボランティアの方々がたくさん来校してくれてとても嬉しかった。ボランティアの方がお店屋さんをしてくれたおかげで、教師は必要な支援に集中できるので非常にありがたい。

京谷様：防災をテーマにした生徒は、小学部でぶらり深堀に参加して防災の学習をしていたはず。学びを深めているようで嬉しい。

谷山様：手話を交えて、画面を説明しながら意見を話すのは大変だと思う。しっかりとそれが伝わっているし、発表の最後に自分の意見をしっかりと伝えられていたのが素晴らしい。

(2)函館聾学校ボランティアバンクについて（教頭）

- ・登録者 40 名。たくさん御協力をいただいている。ズンバというダンスを指導してくださったり、卒業生が部活動の指導の手伝いをしてくれたりしている。もっと活動の幅を広げていきたいと考えている。

(3)学校いじめ防止基本方針について（教頭）

- ・昨年度大きく改訂した。今年度もこの方針のとおりいじめ防止に取り組んでいる。

(4)【説明】「本校の学校運営協議会をより機能させるために」

講師:青 田 基 様

(5)質疑・応答

京谷様：学校運営協議会の意義を改めて整理することができた。

校長：地域学校協働本部は本校にないが、地域学校協働活動はボランティアバンクがあると胸を張れる。本校の校区の渡島・檜山を、本校の地域として考えるのは無理がある。学校のミッションは何か、教職員が何を求めているのか、地域と同じように考えられれば良いのではないかと思います、ボランティアバンクを作った。ボランティアバンクがもっと有効に活用していけたり、ボランティアバンクの会員の方たちが熟議に参加してくれたりすると良いと思っています。

谷山様：ボランティアバンクは多岐にわたる人材がいる。そんな集まりがあるだけでもおもしろい。地元でただメンバーを募ってもなかなか集まらないが、学校が今こういう活動をしている、こんなことを目指しているということが周知されれば、もっと広がるのではないかと。ボランティアバンクは町会がボランティアを募集する際の手本となるような活動だと思っている。参加する側も目標をもっていきたい。

京谷様：学校運営協議会が始まって、保護者として変化を感じているか。

福壽様：学校のためにいろいろな人に協力をいただいて感謝している。子どもが卒業後、ボランティアバンクに私がかかわりたいという思いである。

青田様：こういった活動が良くなってくると、PTA活動をやっていた保護者で、子どもが学校を卒業したあとに、地域の子どものために一肌脱ぎたいと思ってくれる方がいる。函館市や道南地域にそういう方が増えたら本当にありがたい。

青木様：これまで運営委員としてかかわり、実際の活動と今日の青田さんのお話と比較してみてどうだったかを考えると、学校運営協議会は地域が学校に対し意見を伝えられるのも大事だが、先生方が学校運営協議会に何を求めているのかも大事ではないか。学校に対して要望を言う人が多いとのことだが、学校運営協議会是对等の立場であるべきだと思うので、学校の先生方が何を求めているのかはとても大事ではないか。それを知ることによって地域が協力できることも増えるのではないかと。組織図としてももっと教員の声を入れる、もっと地学協働のイメージが現場の教職員や生徒が中心であるべきではないか。コーディネーターがいれば進むものでもないと思う。ボランティアバンクの活動は、地域と学校のゆるいつながりの新しいモデルになり得るのではないかと思います。

青田様：他校の熟議の際に、先生方もたくさん参加された。先生方だけの熟議をして話し合われた内容を運営協議会にもってきけると良い。函館聾学校のボランティアを含んだ形は、特別支援学校として合っている形だと思う。地域に学校の存在意義を知ってもらおうと同時に、少しでもかかわりたいという方が増えると良いと思う。「ボランティア」という名前だから何かしなくてはならないという考えを変えた方がよい。商工会議所の方々に職業学習をお願いするなど、学校側からのお願いがあるときには話を聞いてもらうという活用方法もある。

校長：中小企業家同友会や商工会議所の方々に委員を務めてもらっているのはそういったねらいがあった。キャリア教育でいうと、中学部は企業とのつながりをもっていききたい。先方が聾学校について知らないということもあり、職業学習やPTA研修の研修先を見つけるのにも苦労するので、そういったつながりをもつことで教育活動も広がる。本校は中学部までしかないので中小企業家同友会に行く機会がなかった。それまでは就労についてなどは、本校の描く姿の中になかった。小樽の高聾に進学し、卒業後に函館に戻ってきたときには存在感が薄まって帰ってくる。高聾側も函館のことをよく知らないというケースが多いということを説明させてもらった。それで青木さんに委員になっていただいた。商工会議所の方々も、学校側の事情を知っていないと入らない情報もあると思うので、アンテナを張っていただき情報を教えていただきたい。

田中様：ボランティアバンクの登録をしてほしいという話があったが、卒業生が登録をしたという話を聞いた。例えば団体として登録をして、団体の中から必要に応じて人員の派遣をするということが可能ではないかと考えていた。

校長：手話環境を整えるために、ネイティブサイナーである聞こえない人が参画する乳幼児相談などへのボランティアがあると助かると思っていた。

京谷様：福祉業界も、例えば包括支援センターとして登録して、可能な人が行くとなると可能性が広がる。

校長：団体での登録となれば相談や調整が必要だが、とても嬉しい話である。

仲尾様：手話サークルがあったと思うが、また呼びかけてはどうか。

校長：手話サークルは学校で主催していたわけではなく、場所を貸していた。そこに保護者が入ると勉強になる。学校としてサークルの募集はできないが、以前行っていたような協力はできる。

鏡様：今回いろいろな情報を得て、ボランティアの方々の協力など大変勉強になった。

松田様：ボランティア同士で刺激し合うという話があった。今大人の学び直しということも言われているので、その視点からおもしろい取組である。

8 諸連絡

(1) 創立 130 周年記念式典について（教頭）

- ・令和 7 年 10 月 25 日(土)午後 北海道函館聾学校体育館

(2) 今年度の協議会の予定について（教頭）

- ・第 3 回 学校運営協議会 令和 7 年 2 月 18 日(火)※時間未定

9 その他

- ・特になし。

10 閉会